

専門分野は近代フランス史

第24回大佛次郎論壇賞受賞

■専門分野について

近代フランス史、特にフランス革命・ナポレオン時代の地方行政の歴史を研究しています。研究のきっかけは、高校の世界史の教科書にフランス革命の激動がナポレオンの登場によって終わりを告げたという説明に疑問を持ったことですね。それから20年間研究を続けています。

藤原 翔太さん

広島大学大学院人間社会科学研究科准教授

■大佛次郎論壇賞(朝日新聞社主催)とは

小説、ノンフィクション、歴史記述など幅広い分野で活躍した作家・大佛次郎氏の業績をたたえて2001年に新設。優秀な学術論考を顕彰します。

■受賞作品の内容

ナポレオンが1799年、総裁政府(フランスの行政府)から実権を奪

い権力の座についた軍事クーデター「ブリュメール18日」の事件に注目しました。これまでの歴史観では、権力欲に取りつかれたナポレオンの視点から語られてきましたが、フランス革命の成果を守るためにナポレオンを権力の座に引き上げた革命家たちの視点に立つてクーデターのプロセスを考察し明らかにしました。現代社会でも、実行力のあるリーダーばかりに注目が集まりがちですが、視点を変えてリーダーを支援する一般の人々が抱える不安や恐怖にも注目する必要があると思います。

■評価された点

歴史研究として一つの現実を全く別の視点から再構成し、フランス革命史に新たな光を当てたこ

とや、現代社会の問題を理解する上で示唆を与えてくれる作品ということ で評価されました。

■受賞して

フランス革命の象徴であるナポレオンではなく、普通の人々に注目した視点の転換を認めてもらい、これまでの研究成果が実ったと非常にうれしく思いました。

■今後の研究目標

クーデター後にナポレオンが国民の支持を獲得するために採用した方法や、フランス革命期に起きた地方社会の混乱が解消されていくプロセスなどを明らかにしていきたいです。

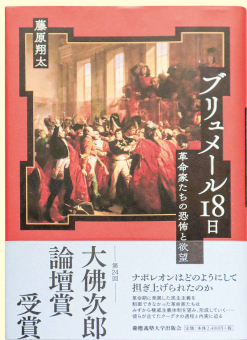
■学生へ一言

研究で大切なことは、毎日地道に史料や本を読み続け、絶えず疑問に思いつながら、それらを書いた人々の思いや背景を考えていく姿勢です。



沈潜

1986年島根県出身。広島大学文学部西洋史学専攻卒業(2008)、広島大学大学院文学研究科博士課程前期修了(2010)、トゥールーズ第2大学歴史学研究科博士課程後期修了(フランス政府給費留学)(2016)、福岡女子大学国際文学部専任講師(2018)、同准教授(2021)、広島大学大学院人間社会科学研究科准教授(2024)



▶第24回大佛次郎論壇賞受賞作品「ブリュメール18日 革命家たちの恐怖と欲望」



▶1月30日に帝国ホテル(東京都で開催された贈呈式。朝日新聞社の中村史郎代表取締役会長(中央左)から藤原准教授に賞牌と賞金が贈られた